

## 第63回病診連携委員会要録

日 時 平成27年4月27日(月) 午後7時45分  
場 所 浪速区医師会 会議室  
出席者 浪速区医師会 : 5名  
南 医 師 会 : 2名  
愛 染 橋 病 院 : 2名  
育 和 会 記 念 病 院 : 2名  
NTT 西日本大阪病院 : 1名  
大 手 前 病 院 : 1名  
大 野 記 念 病 院 : 2名  
千 本 病 院 : 2名  
大 和 中 央 病 院 : 2名  
多 根 総 合 病 院 : 1名  
富 永 病 院 : 2名  
内 藤 病 院 : 2名  
なにわ生野病院 : 2名  
日 生 病 院 : 2名  
浪速区歯科医師会 : 2名  
浪速区薬剤師会 : 2名  
地域包括支援センター : 1名  
居宅介護支援事業者連絡会 : 1名  
浪速区医師会事務局 : 1名

今回は浪速区歯科医師会、浪速区薬剤師会をゲストにお呼びし、大手前病院、千本病院、大和中央病院、日生病院より新たな参加があった。

### 議 題

1. 第62病診連携委員会報告について  
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。
2. ブルーカード事例検討等報告について(日生病院)  
昨年よりシステムに参加しておりその登録件数は3件とのこと。転院が1件。院内での周知でもできており、登録患者は積極的に入院を含めた診察を受け入れることが認識できている。現在は内科通院歴のある患者との限定はあるが今後検討していくことも課題にしていただくとのこと。
3. 病診連携委員会のアンケート結果について  
資料参照
4. 医療連携と現在の取り組みについて(歯科医師会)  
在宅歯科診療のニーズに関しては施設からの依頼が増加傾向を認め、その内容としては入れ歯の新規作成や調整、歯周病、虫歯に加え、歯が外れた、詰め物が外れた等が多いとのこと。依頼元として介護施設からの依頼が多く、訪問看護ステーションからは少ない。満足度は非常に高いとのこと。要介護者の約9割には何らかの歯科治療が必要にもかかわらず、実際にはまだまだ受診率は少ない(27%)のが現状。各機関との連携を推奨する上での課題として周知が足りないとの意見がある。その中で地

域医療介護総合確保基金における事業が進行されており、機器の整備、医療連携体制の推進などが求められている。また浪速区内で年に6回もの研修を開催することも求められているとのことより、非常に厳しい状況である。今後、平成30年までに浪速区を含め全ての地域において在宅歯科ケアステーション整備を進めていく方向であり、多職種連携も行っていきたいとのこと。

#### 5. 医療連携と現在の取り組みについて（薬剤師会）

以下の4点について発表があった。

①薬薬連携を通じて、愛染橋病院と年2回合同研修会を開催しており、その中で、糖尿病・緩和ケア・小児科・婦人科における薬物療法の実際などを報告、検討しているとのこと。医師会、訪問看護、包括・ランチ等多職種との会合を開きディスカッションしているとのこと。

②浪速区歯科医のi-projectに対する協力も行っている。E-お薬手帳のQRコード出力を活用して医師会i-projectクラウドに直接アクセスできるアンドロイドも14件配布稼働中

③在宅訪問服薬指導・i-projectの実施状況アンケート報告

④包括支援センター主催の『つながるマップ』更新に協力等を行っている。

#### 6. その他

日生病院より6月27日開催のあわぎフォーラム開催のお知らせがあった。

#### 7. ブルーカードの動向

ブルーカードの登録件数（合計579件、浪速区内の医師より532件、他地区の医師から47件、使用状況（のべ件数 浪速区863件、他地区96件、4月1日からのカード動向61件（新規21件、入院6件、中止4件）

次回会議予定 平成27年5月25日（月）午後7時45分～